

## 平成19年度 第5回平田地域協議会 会議記録（抜粋）

○日 時 平成20年1月29日（火）午後1時30分～4時00分

○場 所 平田総合支所 大会議室

○出席委員 12名 1号委員 工藤多喜雄、丸山賢治、齋藤孝雄、加藤勝子、菅原律子

2号委員 佐藤富雄、後藤保喜、富樫文雄、佐藤良二

3号委員 佐藤達也、富樫美雪、藤原幸雄

（※1号委員：公共的団体推薦、2号委員：識見委員、3号委員：公募委員）

○欠席委員 3名 1号委員 今井英夫、石川敏行、西田 克

○職 員 平田総合支所長：佐藤富雄、地域振興課長：齋藤啓一、市民福祉課長：久松勝郎、  
建設課長：鈴木良寿、産業課長：尾形 力、教育振興室長：齋藤善和、地域振興  
課課長補佐：石川忠春、地域振興主査兼地域振興係長：佐藤良広、地域振興課主  
任：高橋 慎、地域振興課主事：加藤千佳子

○傍 聴 者 なし

< 協議会次第 >

○市民憲章の唱和

1. 開 会

2. 委嘱状交付

3. 会長あいさつ

4. 平田総合支所長あいさつ

5. 新委員自己紹介

6. 会議録署名委員の選出

7. 報 告

(1) 市役所組織機構の見直しについて

(2) 水道料金の改定について

(3) 区長制度の見直しについて

8. 協 議

(1) コミュニティ振興組織について

・各地域検討会<出前講座>の状況及び課題について

・今後の日程について

(2) 地域の課題について

(3) その他

9. その他

10. 閉 会

- 開会に先立ち、欠席委員を報告。また、協議会終了後委員自主研修会を予定している旨連絡。
- その後、全員で酒田市市民憲章を唱和し開会する。

1. 開 会 … (進行を務める地域振興課長が開会する。)

2. 委嘱状交付

(新たに委員となられた3名(工藤多喜雄氏、加藤勝子氏、後藤保喜氏)に、市長の委嘱状が支所長より伝達される。)

3. 富樫会長あいさつ

日夜、それぞれの立場で地域づくりにご尽力を賜り感謝申し上げます。

今回から委員として新たに加わった方もいらっしゃるが、本協議会は合併協議の中で、住民の意見を市政に反映し、また、市民主導の地域づくりを推進するために設置されたものだ。本日は、協議会終了後に中村副市長を招き自主研修会と懇親会を計画しているので参加願いたい。

さて、当地域において最大の課題はコミュニティ振興組織の結成である。過日10地域で出前講座を利用し検討会が開かれた。本日、その状況等も支所から報告されるが、私にも「どうしたほうがいいのか」、「なぜ酒田市に統一しなければならないのか」、「住民サービスがどうなっていくのか」などの声が届いている。地域内の関係三団体(区長会、分館長・主事会、地域協議会)の正副会長と支所の間で意見交換しているが、いよいよ枠組みをまとめていく必要がある。本日も委員各位から積極的なご意見をお願いしたい。

4. 平田総合支所長あいさつ

冬型の天候が続いている。委員の皆様には地域振興にご尽力賜り感謝申し上げます。

1月4日砂越地内で交通死亡事故が発生した。誠に残念である。また火災の発生もあり、これからも安全・安心の地域づくりに向けて関係者とともに運動を進めていきたい。

さて、コミュニティ振興組織については、出前講座を実施しながら地域内での議論を深めていただいている。後ほど状況等を説明するが、この1月2月は意見集約等の重要な時期ととらえている。

今、20年度予算の編成中である。また併せて市全体としての庁舎の利活用、タウンセンター構想などが検討されている。平田地域では、庁舎について1階に支所と消防分署、2～3階に消防本部が入る検討をしている。また、廃止になった平田診療所を合併する商工会(酒田ふれあい商工会)の本所事務所として活用する検討も進めている。その他、区長制度の廃止など協議している状況を報告させていただく。なお、新年度予算案については、次回に説明させていただきたい。

## 5. 新委員自己紹介

### ○ 工藤委員

山元地域の委員が不在と言うことで欠員に伴いお世話になる。皆さんの指導を受けながら頑張りたい。山間地の問題は数多くあり、山間地も平野部も差のない地域づくりを望んでいる。

### ○ 後藤委員

十二滝の近くに住んでいる。大変な役を引き受けたと感じている。課題となっているコミ振については、勉強不足で建設的な意見を申し上げられるか不安である。ご指導をお願いしたい。

### ○ 加藤委員

民生児童委員協議会から推薦いただいた。仕事として老人福祉に携わり、これまでは仕事と家庭のことを考えてきたが、地域の役に立ちたいと考えて民生児童委員の活動をしている。ご指導をお願いしたい。

## 6. 会議録署名委員の選出 … (7番 加藤勝子委員を選出)

## 7. 報 告

### ○ 富樫会長

報告事項であり、(1) から (3) まで、担当より報告をいただき、その後、質問等を受けたい。

#### (1) 市役所組織機構の見直しについて

(支所長より、現在の検討状況、見通しを報告する。内容としては、20年度より支所建設課と産業課を統合する方針にある件、平田支所庁舎を消防通信司令室等として活用する検討がされていることなどを報告。)

#### (2) 水道料金の改定について

(建設課長より、合併後5年で調整する方針で協議していた水道料金について、調整の状況、水道審議会でも検討していることなどを報告。平田地域では料金体制が用途別から口径別となるため、一般では料金が下がる見込み。逆に企業・事業所の大口径では値上げとなる見込みであり、経過措置を検討していることなどを報告。)

#### (3) 区長制度の見直しについて

(地域振興課長より、集中改革プラン等をふまえ、平成22年度に区長制度を廃止し、

自治会支援制度（補助金）を創設する方針で協議していることを報告。）

○ 佐藤（富）委員

建設課と産業課の統合は、行政のスリム化、行財政改革の一環か。コミ振も同様に行財政改革の一環と受けとめて良いか。

○ 支所長

いずれも集中改革プランに基づく改革である。市としては全国の12万人規模の都市と比較し、その規模に近づけるなど改革を進めている。区長制度、コミ振、庁舎の有効活用も一環であり、旧1市3町それぞれの制度が違っており、調整をしながら効率化を進めている。

○ 富樫会長

報告事項でもあり、他に質問も無いようなので次に進めさせていただく。

## 8. 協 議

(1) コミュニティ振興組織について

- ・各地域検討会<出前講座>の状況及び課題について
- ・今後の日程について

(地域振興課長より出前講座として行った地域検討会の状況を説明し、その後、質疑、協議を行った。)

○ 丸山委員

私も田沢地域の会議に参加した。女性部で事前に周知し、また集まりやすい配慮がなされたこともあり、多くの参加があり意見も活発に出された。相対的に山元と田沢が一緒になる意見が多く、北俣まで一本にという意見は少なかった。山間地域の拠点は仁助新田のコミセンであり、事務所として活用したいという意見があった。山谷地域もコミセンに近いが地域の意向はどうなのかという意見もあった。

○ 工藤委員

市内の方と一緒に仕事をしておりコミ振についても話すことがある。市内では会費を出さない人も相当いるということで先に立つ人は大変だということだった。組織は誰かが引っ張っていく必要があり、私は大きくすると大変だと考えている。地域の意見が反映されること、意思疎通が図られる範囲が望ましい。今、公民館長をしているが地区の協力がなければ何もできないことを実感もしている。

○ 佐藤（良）委員

検討資料ではコミ振経費を2,000円としていたようだが、2,000円で今まで行ってき

たことができなくなるのではという意見がある。自治会活動と公民館を一本で行ってきた地域では、自治会活動と公民館の区別ができず、コミ振活動に何が移っていくのか解らない。コミ振とは何かという意見もあった。市の方針に沿って、住民に誤解を与えない方針を示す必要がある。これから一緒にコミ振を作っていくのに、小さい地域が大きい地域にお願いして入れてもらうというようなことになればおかし。

○ 富樫会長

私は砂越に住んでおり、現在、地域の中にも色々な考えがあるようだし、他地域の方からの意見も届く。要は、コミ振で自分の生活はどう変わるのかを知りたいのだ。住民の求める情報を行政も的確に提供する必要がある。合併で降って湧いたものという消極的な捕え方でなく、集落機能の強化、少子高齢社会への対応等の視点で深める必要がある。出前講座でお互いの認識を深める場が持てたことは良かった。タイムスケジュールもにらみながら、各組織で深めたものを出し合ってこれからのまちづくりを考えていきたいものだ。

○ 佐藤（良）委員

大集落である飛鳥、砂越が周辺の地域をどう見るかが大切である。市町村合併でも小さな町村がまず動き、両市が最後に動き出した。コミ振もそういうものだとは思いたくない。ただ、これから誰が調整するのか、個々の地区に対応を委ねていても難しいと考える。

○ 藤原委員

コミ振について当協議会の権限はどこまであるのか。最終的にくくりを誰が決定するのか疑問である。砂越地区では、先の地区文化祭で役員から単独で結成する方針を年度末の総会に提案したいというあいさつがあった。この会でも何度も論議を重ね、当初は平田一本という雰囲気が強かったが、12月6日の合同検討会に事務局から詳細な資料が示され、住民として考える資料がようやく整った。良くまとめていただければもう少し前を出してほしかった。この会で案を示しても良いのではないかと。またどの機関、団体でくくりを最終決定するのか。

○ 地域振興課長

自治会活動とコミ振活動は、住民生活の充実や融和を図ることは同じでも、コミ振は広範な課題への対応など、これまでの自治会の範囲を越えて生涯学習や地域づくりを担う。自治会はコミ振の構成になるものである。平田地域では一自治会一公民館と複数自治会一公民館があり、一自治会一公民館では自治会と公民館の分類ができない状況である。シミュレーションで公民館費を（2,000円）としたが、自治会費の内数で暫定的な額である。多くの意見を参考にして支所として案を作成し、31日の区長、分館長・主事、地域協議会の三団体の正副会長、地元議員の合同会議に進めていきたい。

枠組み案の最終調整は、区長、館長・主事、当協議会がともに納得できるものをまと

める必要がある。結成の手続きとしては、コミ振の規約をその構成となる各自治会が決定することが必要であろう。

○ 佐藤（良）委員

合併の協議会のような協議する場を持つのか。

○ 地域振興課長

くくり方として良しとなれば、組織、規約等について、お互いの分館、地域の間で協議していく必要がある。

○ 齋藤委員

当協議会は議会に代るものとしてスタートしたはず。ひとつの地区の単独結成で、これまでの議論がすべて御破算になってしまう。そのためにも事務局案ではなく、協議会として案を絞り、31日の議員も含めた会議に出すべきであろう。この一年半、平田地域としては激変であり、十分な議論をしてきたか疑問である。常に市街地の主張が出され、中山間地域の実態とは矛盾している。コミ振問題では、暫定措置が必要であり、不公平な対応ではダメだ。建物の維持管理も地元負担が出るべきではない。市長へもしっかりと報告すべきである。

当山谷地区ではコミセン中心の意見もある。確かに活動拠点として近いことはあるが、自治会、各活動組織を考えれば首をかしげる。個人的には5コミ振として、暫定措置と建物管理への市の支援は絶対必要である。

○ 支所長

議論不足だとすれば甘んじて受け入れる。ただ、市の支援措置が固まるのが遅れた。支所としては支援策をふまえながらパターン等を示すことができた。結果、スケジュールは遅れているが、移行1年前に枠を決め、準備期間を十分持ちたい考えである。

31日の会議には、平田全体として公平、公正で誰もが納得できる案を示したい。あくまでも決定は、自治会におけるコミ振規約決定であるが、議論を先に進めるためのたたき台である。また、支援制度により特定の地域が得する、損するというものがないものとしたい。この会でもそう言う視点で、大所高所からご意見、ご指導を願いたい。暫定措置、地域事業の継続、現分館の管理などの課題については、議員の方々にも率直に地域の声を紹介し、市全体の議論の中で検討を願っていききたい。

○ 佐藤（富）委員

三団体でくくりを決定し、自治会がコミ振の設置、結成を決定することは解った。各地域の意見を集約することはもちろん大切だが、各地区末端まで、組織案を示し理解を得る手だてが抜けていないか。山間地域では選択肢は限られているのが現状であり、もう一段階協議してほしい。

○ 富樫会長

委員それぞれが各地域、各団体等で率直に感じていることを出してほしい。

○ 富樫（美）委員

やはり自治会とコミ振の違いが住民には解らない。また大組織が単独で地域振興を図ろうとするのでなく、共存共栄、平田地域全体の発展を目指してほしい。

○ 佐藤（達）委員

当協議会でも以前は平田ひとつの意見が強く、その後市の支援制度が示され、それをふまえ4～5の分割案の意見が強くなった。31日の区長、分館長・主事、地域協議会の三団体の正副会長、地元議員の合同会議では、各組織内の意見をふまえて協議し、それを分館単位なり地域にフィードバックしてほしいものだ。

○ 加藤委員

コミ振議論は合併し酒田市となったことで発生している。これまで旧平田町時代にはきめ細かなサービスなど、小さな町の良いところは一杯あった。私は緑町に移ってきたが当初は住民間で摩擦もあったが、時間とともに融和し一緒に住みよい地域をつくってきた。今、平田地域も市の方針にまともっていく時期ではないかと考える。また、緑町は砂越と一体となって、多少の摩擦はあっても前に進んでいく必要がある。

○ 地域振興課長

31日には、出前講座及び本日の会議の議論をふまえくり案を示したい。その後、第6回協議会や三団体合同会議を開きたい。もちろん各団体、地域への説明も必要であり、要望があれば随時対応するし、日程を組んで実施するかは検討する。

○ 丸山委員

大きい地域に小さい地域が巻き込まれるというのでなく、痛みは分かち合って、ともに新たなコミュニティをつくるものだと考える。10分館に長年なじんできた平田地域の住民が4～5程度にまとまろうとしている。議論も詰めの段階にきている。市民憲章にもある思いやりの心を持って、各地域の人たちは組織を作り上げなければならないし、酒田市には末端の住民の意向をふまえた英断を求めたい。

○ 富樫会長

私は、地域協議会においては、皆さんから率直な意見を述べていただくことを重要と考えてきた。一人ひとりの意見が出せることで、格差や差別が生まれない社会につながるものだ。住民は日々の暮らしの中で行政との関わりを持っているが、縦割りが最も問題である。より良いサービスを確保する面からも、このことは重要である。

本日、1号、2号、3号委員として各組織等の所属をふまえ、各立場から貴重な意見をいただいた。特に、各委員から出されたコミ振結成に係る格差についての指摘は、当協議会の総意として、市の適切な対応を切に要望するものである。

本日は、引き続き研修会も予定しているので、協議はこれまでとし、31日の会議をふまえ皆さんにあらためて諮りたい。

9. その他 (なし)

10. 閉 会

○ 菅原副会長

出前講座については事務局もご苦労様でした。本日、各地域の状況など集約された内容をふまえ協議を深め、また、各委員からは貴重な意見をいただき感謝申し上げます。この議論をこれからの組織づくり、そして地域力の向上につなげていく必要がある。以上で、第5回平田地域協議会を閉会とする。

(16:00 閉会)

(その後、会場をタウンセンターに移し、中村副市長を講師に自主研修会を開催。)

(注) コミュニティ振興組織=コミ振 として文中使用

会議録署名委員